

中国の社会体育

李 真

はじめに

中国におけるスポーツの発展スピードは非常に速い。一昨年、ロサンゼルス・オリンピックにおいて、15個の金メダルを獲得した。ところが、その反面、中国では社会体育と学校体育、および体育経営・管理などの方面は発展のスピードが比較的遅いようである。

社会体育という用語は、日本独特のものである。中国語に直訳すれば、当然「社会体育」になるであろう。しかしながら、そのように訳しても、現在の中国の人々にはわからないだろうと思う。そこで社会体育という用語に最も近い中国語を探せば、「大衆体育」である。“みんなのスポーツ”の意味に似ていないだろうか。

ここでは、中国の社会体育について、簡単にその解説を試みることにしたい。

1. 社会体育の現状

わが国の社会体育は一般的に都市で多くみられ、農村では非常に少ないのが現状である。つまり農村では社会体育は珍しいこととされている。しかし、女性の就業率が高い都市においても専業主婦という人たちがとても少なく、また、週休1日制と決められているから、余暇時間が不十分なわけであり、中国における社会体育活動はあまり盛んではない。

ア) 社会体育組織機構

中国最高の体育組織機構は国家体育運動委員会と言われ、各部（日本の文部省、外務省などの各省に該当する機関）と同等の行政機関である。そして、各部の中に設けられている体育課を管理している。また、国家体育運動委員会の下に各省、市、区の体育運動委員会もある。その各省、市、区の体育運動委員会の下に大衆体

育事務所という機構が設けられ、主に公共団体や民間団体における社会体育活動の運営、管理を担当している。

イ) 社会体育施設

社会体育施設については都市によって大きく事情が異なる。一般的に各市、区(県)（中国の行政区分は省、市、区(県)に分ける）は独自の体育施設を設置している。規模の大きさはいろいろある。その施設は日常、主として业余体育学校に使用される。しかし、その施設は业余体育学校として以外にも、企業、学校、民間団体、公共団体に賃貸しされることがある。また、プールやテニスコートは個人にも安い料金で開放されている。また、ある一部の運動場は朝の時間帯（6時ごろ）を利用して大衆に開放され、そこでは自由に運動ができるようになっている。

ウ) 社会体育指導者

社会体育指導者には2つの形のものがある。1つは、社会体育の団体、民間のスポーツ教室が、体育活動の展開をするにあたって、体育学院、または体育学校から教師あるいはコーチを招くというものである。

もう1つは、新興住宅地で毎朝人びとが活動の場所に出て、各種目のスポーツグループに自然に分かれて実施するとき、その中の優秀者が指導者となる場合である。その指導者は、いずれかの学校の体育の先生である可能性が高い。前者は報酬があり、後者は報酬がない。

エ) 大衆の社会体育への参加

体育人口は体育に力をいれている国において、その割合が一般的に50%をこえると思われる。社会体育活動の実施率について、直接参加と間接参加とに分けて見ることにする。前者は実際に体育運動に直接的に参加する人々のことをいい、後者は体育運動に間接的に参加する

人々のことをいう。特に後者について説明すると、テレビでスポーツ番組を見たり、ある新聞スポーツニュース欄を読んだり、スポーツの試合を鑑賞したりすることをいう。

昨年、天津(人口、538万)、杭州(人口、125万)、大連(人口、163万)という3つの都市において社会体育の実施状況について下記のとおり調査が実施された。¹⁾ その結果を紹介することにしよう。

まず表1をみると、性、結婚、年齢と社会体

表1 社会体育活動への実施(性, 結婚, 年齢)(%)

都市	性別	結婚	参加形式	年齢					
				19以下	20~29	30~39	40~49	50~59	60以上
天津	男	既婚	間接	0	20.53	43.75	12.50	7.14	0.89
			直接	0	15.18	18.75	9.82	7.14	0.89
		未婚	間接	10.63	57.44	10.65	0	0	0
	直接		14.89	42.55	6.38	0	0	0	
	女	既婚	間接	0	17.80	28.76	12.32	1.36	0
			直接	0	5.45	8.90	11.64	1.36	0
未婚		間接	5.88	55.88	2.94	0	0	0	
		直接	7.84	39.21	0.98	0	0	0	
杭州	男	既婚	間接	0	6.15	38.46	13.84	7.69	0
			直接	0	4.61	20.00	9.23	3.07	0
		未婚	間接	49.62	22.22	0.74	0	0	0
	直接		62.96	17.77	0	0	0	0	
	女	既婚	間接	0	9.09	13.63	13.63	22.72	0
			不明	0	4.54	9.09	9.06	18.18	0
未婚		間接	0.32	12.67	1.41	0	0	0	
		不明	63.38	23.94	1.41	0	0	0	
大連	男	既婚	間接	0	10.77	22.75	16.16	11.97	2.39
			直接	0	9.58	20.35	15.56	8.98	2.39
		未婚	間接	1.72	60.34	0	0	0	0
	直接		1.72	56.89	0	14.70	1.47	0	
	女	既婚	間接	0	11.76	29.41	5.88	1.47	0
			直接	0	7.35	22.05	0	0	0
未婚		間接	17.14	48.57	2.85	0	0	0	
		直接	17.14	51.42	0	0	0	0	

育活動の実施率との間には、密接な関係がかなりある。例えば、既婚の女性(30~39歳)は既婚の男性(30~39歳)と比べて、その実施率は約10%低い。さらに、体育運動を直接参加する実施率について、20歳代の既婚の男性(20~29歳)のほうが30歳代の既婚の男性(30~39歳)より低く、40歳以上になると、その実施率は更に急激に下がっていることがわかる。それは、結婚後、夫婦はお互いに分担して、いろいろな家事を行うためである。特に重要な点は、未婚

の男女(20~29歳)の中で約三分の一の人々が積極的に社会体育活動をやっていると思われることである。

この他、表2に示すとおり、各産業別にみた週あたりの社会体育活動直接参加の実施時間に

表2-1 産業にみた社会体育活動の実施率(%)

		天津	杭州	大連
		N=407	N=293	N=329
第1次産業	実施	25人(6.1)	13人(4.4)	26人(7.9)
	非実施	29人(7.2)	5人(1.8)	14人(4.3)
第2次産業	実施	39人(9.6)	64人(21.8)	185人(56.2)
	非実施	65人(16.0)	49人(16.7)	58人(17.6)
第3次産業	実施	130人(31.9)	144人(49.1)	24人(7.3)
	非実施	119人(29.2)	18人(6.2)	22人(6.7)

表2-2 社会体育活動の実施率(%)

	天津	杭州	大連
	N=407	N=293	N=329
1時間以下	127人(31.2)	48人(16.4)	135人(41.0)
1~3時間	49人(12.0)	31人(6.5)	54人(16.4)
3~4時間	11人(2.7)	15人(5.1)	22人(6.7)
4時間以上	7人(1.7)	127人(43.3)	24人(7.3)

ついてみると、ある都市は第二産業の参加率のほうが高く、別の都市は第三産業の参加率のほうが高く、一概に言うことができない。活動時間については毎週、一時間以下の社会体育活動の参加率が一番高いことがわかる。

表3を見れば、社会体育活動の直接的に参加する人数の一番多いのはバドミントンである。次いで、水泳、ジョギング・マラソン、ラジオ体操そしてサッカーというような順番である。その他、武術と釣りもよく行われる活動である。また、50歳以上の人々は、バドミントン、ジョギング・マラソン、ラジオ体操、水泳に加えて医療体操(健康の回復のためにつくられた体操)をよく行っていることがわかる。

表4によると、住民の年齢の大小を問わず、テレビでのスポーツ番組を見る人と試合を見に行く人にとって、人気の高いスポーツ種目は、バレーボール、サッカー、ジョギング・マラソン、バスケットボールおよび体操競技、高飛び込みといった種目である。

ともあれ、中国における社会体育は施設の不足、週休1日制といった客観的条件の不足が表4によると、住民の年齢の大小を問わず、

表3 男性を対象にしたスポーツ種目への直接的参加（年齢別／参加形式）（人）

年齢	種目	体操	新体操	ラジ体操	医療体操	ジョギングマラソン	走り幅跳び	走り高跳び	投擲	サッカー	バスケットボール	バレーボール	卓球	テニス	バドミントン	野球	水泳	高飛び込み	スキューバダイビング	カヌー	武術	重量挙げ	レスリング	柔道	射撃	モータースイクル	アイススケート	アイスホッケー	スキー	釣	登山
19才以下	25	0	59	0	54	31	32	44	6	53	48	33	1	52	0	45	8	7	14	47	40	2	0	9	0	3	0	0	41	0	
20～29才	14	0	33	5	55	7	1	1	78	34	42	36	0	97	1	84	5	0	34	22	2	5	2	15	13	15	0	0	28	3	
30～39才	3	0	26	5	33	0	0	3	46	22	25	26	0	54	1	63	3	0	12	7	1	1	0	4	4	8	0	0	11	1	
40～49才	4	0	20	8	21	0	0	1	3	7	2	9	1	25	0	11	0	0	6	10	1	0	1	4	0	2	0	0	7	2	
50～59才	2	0	10	20	18	0	0	0	2	0	1	0	0	16	0	9	3	0	2	4	0	0	0	0	0	1	0	0	4	4	
60才以上	2	0	0	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
合計	50	0	148	45	193	38	33	49	135	116	118	104	2	244	2	212	19	7	68	92	44	8	3	32	17	29	0	0	91	11	

表4 男性を対象にしたスポーツ種目への間接的参加（年齢別／参加形式）（人）

年齢	種目	体操	新体操	ラジ体操	医療体操	ジョギングマラソン	走り幅跳び	走り高跳び	投擲	サッカー	バスケットボール	バレーボール	卓球	テニス	バドミントン	野球	水泳	高飛び込み	スキューバダイビング	カヌー	武術	重量挙げ	レスリング	柔道	射撃	モータースイクル	アイススケート	アイスホッケー	スキー	釣	登山
19才以下	33	0	0	0	41	0	0	0	41	37	55	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20～29才	53	0	0	0	80	0	0	0	171	60	177	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30～39才	44	0	1	0	81	0	0	0	135	40	141	0	0	0	0	32	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～49才	24	0	0	0	36	0	0	0	27	23	65	0	0	0	0	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～59才	15	0	0	0	20	0	0	0	15	16	41	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60才以上	2	0	0	1	1	0	0	0	3	3	5	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	171	0	1	1	259	0	0	0	392	179	484	0	0	0	0	32	126	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

会体育に参加する人々の割合を低くしているものと思われる。しかし、1984年のロサンゼルス・オリンピックにおける中国選手の活躍が国民に大きい刺激を与え、今ではスポーツに関心をもつ人々が非常に増えてきている。したがって、今後スポーツ施設等の条件整備が重要な課題になるとと思われる。

2. 社会体育活動の展開

次に、我が国の社会体育活動に関する展開の様子を総合的に述べることにしよう。

ア) 障害者スポーツ

障害者スポーツは大都市で広く実施されている。実際手段は医師と指導者が緊密な連携をとりながら行われている。障害者スポーツの親類は次のように分けられよう。

- (1) 視覚障害者のスポーツ
- (2) 聴覚、言語障害者のスポーツ
- (3) 肢体不自由者のスポーツ

近年来、一年に一度、各省、市、区において身障者の運動会が開催され、またそれを基盤にして全国身体障害者スポーツ大会が開催されている。

イ) 民族体育

我が国は多民族国家である。各民族にはそれぞれ民族の生活習慣とその伝統活動や行事などがある。さらに多彩なスポーツ活動もある。少数民族地域では節句と行事が多い。その節句、行事において、その民族の特徴的なスポーツ活動として、キャンプ・ファイヤーなどが行われる。優勝者に対して一定の賞が与えられるようである。その民族のスポーツ種目は少なくとも160ぐらいあると思われる⁽²⁾。

ウ) 高齢者の社会体育活動

平均寿命の伸びと出生率の低下により高齢化社会に突入し、高齢者の健康とレジャー活動は、無視できない重要な社会的関心をよんでいる。

我が国は1994年から1996年の間に、高齢化社会になることが予測されている⁽³⁾。中国の場合、高齢者に生活の保障を与えているし、余暇時間も十分である。普通、高齢者は朝と昼の間にスポーツ・レクリエーション活動を行っている。次に例をあげて説明してみよう。

天津市には高齢者団地（退職した人が入る団地）がある。団地の中にレクリエーションセンターがある。そのセンターにいろいろな教室が設けられている。例えば、漢方医教室、大極拳と大極剣および気功などのさまざまなスポーツ教室があるし、また書道教室、中国絵教室、撮影教室、囲碁教室、マージャン教室、調理法教室、ビリヤード教室、ボウリング教室およびつり協会などがある。また、ゲートボールチームが成立したところもある。さらに、秋と春に観光団体を組織して名所に旅行をすることがすでに習慣になっている。高齢者は自分の体力に基づいて、すきな種目を選択するようになっている。指導者はみな招待される。そのいろんな活動は老人の身体的な健康のためだけでなく、さらに情緒的、精神的満足を与えられているとされている。

エ) 朝の体育活動

朝の体育活動は中国独特の活動である。毎朝6時ごろに人々は自発的に活動場所に出て体育活動を行う。それは、大、中都市ではよく見ら

れる。場所は、公園、近隣住区の遊び場、より広い空間をもつ運動広場や公園の一角、大きな住宅街の一角、川辺の広場および公共団体の運動場あるいは運動場のそばの駐車場などである。あちらこちらで多彩な体育活動が行われている。例えば、武術類（狭義の武導の技術、武芸）、功類（伝統的と現代医学と結びつける功類）、大極拳および各種動物の動作に基づいて組み立てる功類活動である。又、マラソンを行っている人々も見かけられる。参加者は青少年、成人、婦人、高齢者と様々である。そして、市、区によって、またはその地域の産業の違いによって朝の活動への参加者が多い所と少ない所がある。

3. 社会体育の新しい動向

最近、我が国の人民代表大会において大衆体育をより広く展開することが強調された。体育運動委員会の下の大衆体育事務所が拡大されていく模様である。社会体育施設も次第に増加させることが決められた。

地域住民のスポーツ活動を促進するため、学校体育施設を利用して夏休みと冬休みにいろいろなスポーツ教室が実施されるようになった。また、ある体育学院では、その施設を開放するという方向で議論がなされているところである。学校体育施設開放の傾向が徐々に現れると思われる。

今や、北京で大規模な「健復中心」という施設を建てているところである。日本語に訳せば、健康の回復センターと訳せるであろう。そのセンターは主に障害者、婦人、高齢者および病弱者、虚弱者むけで、医療とスポーツが緊密な連携を図り、体力的、情緒的、精神的回復を達成させようとしている。

一方、近年、ある体育学院および大学の体育学部では社会体育学研究室を設け、いろいろな社会体育現象の研究に力を入れはじめたようである。今後の研究成果が期待される。

参考文献

- 1) 牛興華、「中国の大、中都市の各産業に対する社会体育人口の構造の分析」(体育科学研究と教学) 1986
- 2) 梁多俊、李玲、「民族体育のもと」(人民日報〈海外版〉) 1986年8月20日
- 3) 黎宗猷、「今後の高齢者問題について」(天津日報) 1986年4月8日